

しばた
| 柴 | 田 | 町 |
町制施行60周年記念誌

未来への
往還60

未来への往還
しばたの道

柴田町制施行60周年記念誌

発行 ▶ 宮城県柴田町
〒989-1692
宮城県柴田郡柴田町船岡中央2丁目3番45号
TEL.0224-54-2111 FAX.0224-55-4172
編集 ▶ 柴田町役場 まちづくり政策課
制作 ▶ 株式会社きょうせい東北支社



未来への往還 座談会

私たちが想いを寄せる“道” 生活と共に、人生と共に それは未来へと続く

おうかん
往還…「道を行き来すること」や「人などが行き来するための道」
先人たちの願いと想いが今も“道”として町内に多く残る柴田町。
“道”を知ることが、未来への道標となる。

— 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。柴田町は町制施行六〇周年を迎えました。町とともに歩まれてこられた皆さまから“道”にまつわる思い出やこれからの町のあり方についてお話いただきたいと思っています。

残したい道の光景

大沼 私は生まれも育ちも船迫です。道といえば、まず思い出されるのが小学校の通学路ですね。四年生までは船迫分校へ、五年生からは槻木小学校に通いました。そこまでの道のりを下駄や草履で通ったのですが、当時は狭い砂利道でしたので歩くのが大変でした。

そして、通学路だった奥州街道沿いには大きな松並木があり、子どもが二、三人で手をつないでやっとな周ることができるような太い松の木があったのを今でも覚えています。

猪股 私は槻木の出身で、代々続く家業の旅館業を営んでいます。私の生家でもある旅館近くの槻木停

車場線も道幅が狭く砂利道でした。私が子どもの頃はとてにぎわっていて、ガタガタと音を立てながら馬車やリヤカーがたくさん行き交っていたのを覚えていてます。

猪股 そうでした。戦後間もない頃は、槻木地区でも車を持っているお宅は数えるほどしかありませんでした。当時はガソリン車だけでなく、木炭車や石炭車もありましたね。時代の進化とともに、乗り物も変わっていききました。



県道槻木停車場線沿いにある逢隈旅館。
明治9年と14年、東北巡幸の際には
明治天皇がご休憩をとられた

た危険はありませんでした。友だちとキャッチボールや縄跳び、ケン玉などで遊び、冬には夜のうちに道路に水をまき、朝早く、凍った道路でスケートのようなことをして遊んだのを思い出します。当時はスケート靴なんて持っていませんから、竹を割っただけのものだったり、下駄に金具を付けただけの手作りスケート靴でした。

こうして振り返ってみると、あの頃は狭い道が子どもたちの遊び場でした。

町長 例えば紙芝居なんかもそうですね。昔はよく道でイベントが行われていました。

大沼 そうですね、道端で自転車に積んだキャンディを売っている人もいましたね。昔は本当に車が少なくてのんびりした時代でした。



昭和30年頃の船迫分校の校舎



本船迫から白幡まで
松並木が続いていた

PROFILE



猪股 和郎さん

旅館業
槻木上町在住
昭和11年10月生



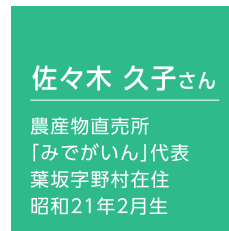
大沼 喜昭さん

農業
船迫字土平在住
昭和12年11月生



神宮寺 敬子さん

主婦
船岡東在住
昭和19年5月生



佐々木 久子さん

農産物直売所
「みでがいん」代表
葉坂字野村在住
昭和21年2月生



滝口 茂

柴田町長
平成14年7月から
町長に就任
昭和26年5月生



座談会は新緑の季節に柴田町観光物産交流館「さくらの里」で行われた。写真左から猪股さん、神宮寺さん、滝口町長、佐々木さん、大沼さん

神宮寺 私は下名生の出身です。以前は、看護師や介護支援専門員として町内で働いていました。私が印象に残っているのは国鉄バスですね。子どもの頃、槻木から角田へ向かう道路は簡易舗装で砂利道のようなでした。バスでデコボコの道を走っていると、曲がり角では倒れそうなくらい片側に大きく傾き、「えっ、大丈夫なの？」と思ったほどでした。

猪股 ちょっと時代は前後してしましますが、槻木から角田まで軽便鉄道(線路の間の幅が狭く、構造の簡単な鉄道)が活躍したそうです。その後、木炭自動車の切り替わりしましたが、その木炭自動車は槻木の白幡の坂を上れなくなることがしばしばあり、乗車していた人たちがみんなで車を押して坂を越えたこともあったようです。



軽便鉄道
(槻木-角田線)

町長 道は道でも水の道(水運)について何か思い出がありますか。

神宮寺 そうですね、下名生地区の清水にあった船場から向こう岸に渡りたいとき、「おーい」と呼ぶと向こう岸から渡し船がやってきてくれて、自転車ごと渡らせてもらっていたものです。大雨で川が増水すると、向こう岸には行けませんでしたね。

大沼 大雨といえば、白石川が氾濫するたびに周辺の地区は大変なことになっていました。そのため、昔は船を軒先に吊るして、氾濫したらすぐに逃げられるように備えていたものです。

佐々木 「みでがいん」ができて近所の人たちとお話する機会が増えて毎日とっても楽しいです。農免農道を通じて町外からいらっしやるお客さんとの新しい出会いもあります。「みでがいん」は私たちの憩いの場です。「みでがいん」のような直売所が人と地域を結ぶ拠点となって、町に元気を与える一つの希望になってくれることが私の願いですね。

柴田バイパスがまちを変えた

大沼 道の中でも町の歴史を大きく変えたのは柴田バイパスです。昔はよく「白河以北、一山三文の地」といわれ、東北は発展しないと思われていましたが、柴田バイパスができてからまちは大きく変わりましたよね。



柴田町の歴史を熱く語る大沼さん

町長 柴田バイパスの開通がきっかけとなって、船迫周辺は目覚ましい発展を遂げ、高層住宅や大型商業施設もできました。

大沼 柴田バイパスは地域社会に欠かせない経済や文化を運んでくれます。広い道路も狭い道路も、道と

佐々木 私は角田市の生まれで、結婚して葉坂地区に移り住みました。現在は農業のかたわら地域の皆さんと農免農道沿いにある直売所「みでがいん」の運営もしています。

直売所の近くで子どもたちが遊べるように釣り竿を用意したところ、「あっ、ザリガニがいるー」と大喜びして、川に興味を持ってくれました。子どもたちが安心して遊べる川をよみがえらせ、ホタルが乱舞するような豊かな自然に包まれた風景を再現したいですね。

大沼 ザリガニを見ると、今は大人の方が怖がってしまっていて、お父さんやお母さんの方が弱虫ですよ(笑)。

佐々木 案外そうかもしれません(笑)。川にしても山にしても沿道に広がる美しい自然だけは、これからも変わらずに守り続けたいです。



美しい自然を守りたいと語る佐々木さん

人と人をつなぐ道

神宮寺 昔の方が道や通りは活気があったと思います。食料品店や生活用品店、洋服を売っているお店など、いろいろなお店があつて本当ににぎやかでした。

いっしょの必要に応じてそれぞれの役割を果たしていると思えますね。

佐々木 そうですね、私も道は生活に欠かせない動線そのものだと思います。柴田バイパスのおかげで人々の行動範囲が広がり、本当に多くの点で生活が便利になりました。

あの時代の道は、人と人との温もりを伝えてくれたり、「ほっ」とできる時間を与えてくれたりしていた気がします。



昭和46年頃の商店街

佐々木 昔は道も狭い道が多かったような気がします。だけど、狭いからこそお互いに挨拶を交わし会話が生まれたことは、とてもよいことだったと思います。今はみんな車ですれ違うだけなので、挨拶の音が聞かれなくなったのはちょっと寂しいですね。

猪股 昔は道に沿って家屋が並び、お店もできて、みんながお互いのことを考えながら暮らしていましたね。まだテレビのない時代には、道端でラジオを流しながら、テーブルや椅子を置いて近所の方たちとお茶飲みをしていたものです。そういった人とのつながりが道にはありました。



幼い頃の商店街を懐かしく語る猪股さん



平成2年頃の柴田バイパス



柴田バイパス全線開通(昭和60年12月)



それぞれの道への想いを語った座談会

歩いて楽しいまちづくり

町長 最近は町内を散策する人の姿が多く見かけられるようになりました。神宮寺さんはノルディックウォーキングサークルのメンバーですが、町を歩くことの魅力は何だと思えますか。

神宮寺 そうですね、最初は皆さん、健康づくりが目的で始められるのですが、サークルのメンバーとの出会いや、今まで知らなかった風景を見つけるなど魅力はたくさんあると思います。



歩く楽しさを語る神宮寺さん

町長 今は町内で四つのサークルが活動しているんですよ。

神宮寺 はい、そうですね。各サークルとも二十人ほどのメンバーがいます。私が所属しているサークルは、毎週土曜日、朝の六時から歩き始めます。日の出をパツクに蔵王の山並みを見ながら歩くのはとても気持ちがいいですよ。今は仲間と一緒に歩くだけでなく、彼岸花の植栽などのボランティア活動もしています。

共に歩みたい 未来へと続く道

町長 柴田町は町制施行六〇周年を迎えたわけですが、これから先、皆さんはどのような町になって欲しいとお考えですか。

神宮寺 最近子どもが遊んでいる姿を見かけなくなりました。子どもたちが安心して遊べる場所を提供してもらいたいと思います。子どもから高齢者までがふれあえる公園のような場所があるといいですね。「元気な高齢者のまち柴田」であって欲しいです。あと、最近エクスサイズで自転車に乗る人も増えているので、サイクリングロードもあればいいですね。

猪股 柴田町は船岡町と槻木町が合併してできました。どちらかという新しいまちづくりの船岡地区



柴田町の未来を語る皆さん

猪股 「往還」の「還」という文字には「還る」という意味があります。活力に溢れ、若い人たちが活躍できる、心から住んでよかったと思えるような町であって欲しいですね。佐々木さんがおっしゃった通り、Uターンなどでふるさとへ戻りたくなるような町が理想ですね。

町長 貴重なご意見をお聞かせいただき、皆さんありがとうございます。私が目指しているのは、例えば三十分間の旅番組をしっかりと構成できるくらいに町の魅力を充実させることです。自然環境や山村風景、地域の人々との交流、食との出会いなど、歩いて楽しむことでより多くの魅力を発見し、それを磨き上げるのです。



にぎわいづくりの場としての道づくりを説く滝口町長

町長 なるほど。まち歩きをすることで、沿道をもっと美しくしたい、きれいにしようという想いからボランティア精神が花開いたのは素晴らしいことだと思います。

柴田町では地方創生の一つとして楽しく歩くことの魅力を広めています。これはフットパスと呼ばれ、風景や自然を楽しみながら、歩くこと（FOOT）ができる小径（PATH）のことをいいます。森林や田園地帯、古い街並みを歩きながら、地域の歴史や景観を楽しもうというものです。

今、町では地域の特色を活かしたフットパスのモデルコースを設けています。「船岡コース」と「槻木コース」という二つのコースです。船岡城址公園周辺や農村地帯の田園風景、小学校分校跡を中心とした山村風景などを拠点に、あるがままの柴田町の魅力を感じてもらいます。歩いて楽しく回遊できるまちづくりが今こそ求められているのです。

そのために力を入れていることのひとつに花回廊があります。春の回廊でもいいし、秋の回廊でもいいし、四季折々の風景を楽しみながら歩いて回れる道づくりを実現したいと考えています。このことは町民の健康やウォーキングツーリズムにも通じるものがあります。例えばマルシェ（市場）を企画しながら、道を「面」として楽しむこともできますね。大沼さんがおっしゃるように、次は外国人をターゲットに、世界に開かれた「花のまち柴田」を目指したいと思えます。今年の春は桜を見るために約二、〇〇〇人も外国人が柴田町を訪れました。外国人専用の観光バスも目立ちました。



船岡城址公園の桜

と、昔ながらの街並みの槻木地区という印象がありました。ですが、最近では槻木地区も平成生まれの若い人たちが多くなってきたり、これからは若者の元気が溢れる町になって欲しいです。

大沼 そうですね、若い人たちのためにも町には夢を大きく持つて欲しいです。例えば船岡城址公園から太陽の村までケーブルカーで結ぶというプロジェクトはどうでしょう。それと、「世界に誇れ、桜のまち」を合言葉に、海外からも多くの観光客を呼び込めるような新しい企画にも期待します。あと、できれば温泉を掘って欲しいという夢もあります。

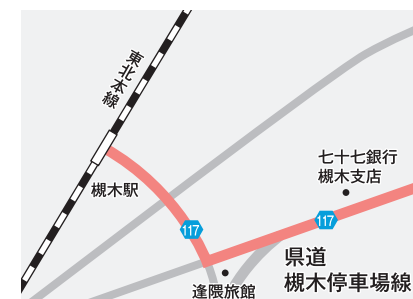


コミュニティ空間としての道

未来への往還 しばたの道

槻木駅前

柴田町の玄関口の一つでもある槻木駅。
 その駅前や商店街は、
 朝夕ともなると通勤、通学の人が多く行き交う。
 宿場町として栄えた頃からの風情を残しながら、
 人々の暮らしを見守り続けてきた槻木駅周辺の道。
 これからも槻木地区の未来に向けた
 発展への役割を果たしていく。



槻木駅西口で行われた夏祭り



平成17年に始まった「メタセコイアの奇跡! 光り輝け槻木駅」

昔

江戸時代には奥州街道の六十四番目の宿場町として栄え、多くの旅人でにぎわった槻木宿。仙台藩が参勤交代で江戸へ向かう道中にある「逢隈旅館」は、当時を知ることのできる貴重な建造物です。宿は現在も現役で活躍しており、古の旅人の面影を垣間見ることが出来ます。

時は流れ、明治二十四年一月十二日に東北本線槻木駅が開業すると、槻木は大きく変貌を遂げました。首都圏と一本のレールでつながれた「鉄の道」ができたことで、町に多くの人や物が集まるようになりました。

今から六十年前の昭和三十一年、船岡町と槻木町が合併し柴田町が誕生しました。その当時、槻木駅前の道は砂利道が多いうえに道幅が狭く、ガタガタと車体をきませながら、人力の荷車やリヤカーが行き交っていました。その道端ではボール投げや縄跳びで遊ぶ子どもたち、ラジオを聴

きながらお茶飲み話に花を咲かせる大人たちの姿も見られ、人と地域を結ぶ道路は互いに心を通い合わせる交流の場でもありました。



昭和55年頃の槻木停車場線



昭和41年頃の槻木駅前

今

現在は駅周辺の宅地化により、「閑静な住宅街」と「ノスタルジックな建物」が共存する新たな街並みが形成されています。時代の流れとともに、昔のように外で遊ぶ子ども

たちの笑い声や、大人たちの談笑の声を耳にする機会は少なくなりましたが、今の槻木駅周辺にはそれにかわる新たな魅力も生まれてきています。

槻木地区の子どもたちに夢を与えたいという想いから始まった槻木駅前メタセコイアのイルミネーションや「槻木まちづくりの会」が中心となり開催される夏祭り、阿武隈急行のラッピング車両など、地域に元気を吹き込むイベントが盛んに行われています。

長く住んでいる人、新たに移り住む人、そのすべての人に「住みたくなるまち 槻木」を実感してもらおうことがこれからの地域の発展につながると考えています。



阿武隈急行沿線自治体が共同で実施するラッピング車両は、個性溢れる取り組みの一つ



現在の槻木駅前

【槻木停車場線】

鉄道の駅と最寄りの県道や国道を結ぶ道路の中には、停車場線と名付けられている道路があります。槻木停車場線は、東北本線槻木駅と県道巨理村田線を結ぶ県道であり、槻木地区のメイン道路となっています。

未来への往還 しばたの道

柴田バイパス

町の主要幹線道路での渋滞を緩和するため、昭和60年に全線開通した柴田バイパス。柴田バイパスの開通によって、道路周辺の宅地開発なども進められた。そして、柴田バイパスは新たな人の流れも生み出した。大型の商業施設や高層住宅などが建てられ、柴田町のにぎわいの拠点となった。今後も仙南地域の中核拠点としてダイナミックに変貌し、存在感を増すことが期待されている。



船迫住宅団地(昭和50年代)



商業施設が立ち並ぶ柴田バイパス周辺

昔

旧国道四号線(現在の主要地方道白石柴田線)は物流・交通の動脈であると同時に、地域の生活道路でもありました。子どもたちはこの道を通学路にし、大人はこの道で仕事、買い物に出かけていました。

昭和四十年代、高度経済成長の波が柴田町にも押し寄せ、仙南地域の経済活動がさらに活発になってくると、旧国道四号線では頻繁に渋滞が発生するようになっていました。このままでは交通事故や騒音、排気ガスなどによる健康被害が心配されるほどでした。年々、一日の交通量は増加し、住民の間では新たなバイパスの早期着工を望む声が強まりました。

当時の建設省はこうした交通状況を改善するため、昭和四十二年より国道四号槻木バイパスと柴田バイパスの工事を始めました。

着工から十八年という長い歳月をかけて、柴田バイパスの全線暫定二車線化が実現したのは昭和六十年十二月十二日のことでした。平成元年十二月には全線四車線化が完了し、これにより車の流れはスムーズになり、町内の交通状況は一変しました。



大型車両が行き交う旧国道4号線(昭和40年代)



混雑する旧国道4号線(昭和40年代)

今

柴田バイパスの開通は、住民の生活そのものを大きく変えることとなりました。

沿道には大型商業施設、高層住宅や量販店、小売店が立ち並び、住民の生活の利便性が飛躍的に向上しました。そして、その影響は町内にとどまらず、近隣の市町からも多くの買い物客を呼び込み、仙南地域の商業の中心となっています。さらに、交通の便がよくなったことにより、新たな団地の整備が図られ、住みよいまちとして人口が増加しました。

柴田バイパスのもう一つの魅力は高速交通網との連携のよさです。東北自動車道、仙台東部道路へそれぞれ短時間でアクセスが可能で、さまざまな方面への長距離移動の拠点となっています。

白石川と並んで走るこの柴田バイパスは、春には沿道を桜の並木が彩り、行き交う人々に「花のまち柴田」を印象づけています。



JR東北本線と立体交差する槻木高架橋



柴田バイパス周辺の住宅団地

【船迫住宅団地】

昭和49年、宮城県住宅供給公社と町の共同で造成に着手。総面積89haにもおよぶ広大な土地には、1,600戸(6,000人居住可)の宅地、小・中学校などの公共施設用地が確保されました。当時の船迫住宅団地を含む、現在の本船迫・西船迫地区の世帯数は、1,954世帯(平成28年7月末現在)となり、緑豊かな住宅地として美しい街並みを形成しています。

未来への往還 しばたの道

農免農道

柴田町は、稲作や野菜、花きの栽培などの農業が盛んな町でもある。しかし、地形が複雑に入り組んだ地域の農家は、農作業や農産物の出荷に大変な苦勞を強いられていた。農免農道の開通は地域住民の悲願であり、その開通によって地域にもたらされた恩恵は大きいものであった。集落間を結ぶ道路と人呼び込む道路として新たな役割を担い地域を活気づける。



平成3年度から平成14年度に造成された農免農道



生活の糧、地域の交流の場として運営されている直売所



果物の収穫の様子(昭和40年代)



リンゴの出荷風景(昭和40年代)

昔

古くから農業が盛んな柴田町。農業に関する歴史をひもといてみると、農家は度々襲いかかる凶作に苦しみながらも、丘陵地の麓から平地へと畑を広がってきました。

槻木地区の農村地帯は、麓から放射線状に延びる沢に沿って点在し、主な施設への移動や農産物の輸送は沢の下流へ一旦出て、大きく迂回するという回り道しかありませんでした。しかも小型のトラックに農産物を積み込み、狭く曲がりくねったあぜ道を通らなければなりません。その作業はせつかくの農産物が傷んでしまわないように、神経と時間を使う大仕事となっていました。

こうした状況の中、農業施設の利用拡大や、大型化する農業機械への対応、農産物の物流における合理化などを行うため、農業関係者の間では新しい農免農道の開通が切望されていました。



収穫した果実を大きさなどで選定する選果場(昭和40年代)

今

住民が待ちに待った農免農道が完成し、農業に携わる住民だけではなく、地域住民の生活が大きく変化しました。通勤や通学、買い物などさまざまな面で便利になり、町内外からの来訪者も増え、地域の活気が大いに増しました。地域住民も積極的に農免農道に関わっています。道路沿いに約三キロメートルにわたって整備されたすいせんロードは、道を通る多くの人たちに安らぎや温もりを与えています。

そして、田園風景が色濃く残る農免農道には、地元産の野菜などを販売している直売所があります。旬の野菜や米、手作りのお惣菜が店内に並び、週末ともなると朝早くからお客さんが訪れます。目当ての商品を購入したお客さんと直売所の地域住民が談笑する光景はすでに日常の「コマ」になっています。直売所は商品の販売による収益だけではなく、地域住民に「生きがい」や「やりがい」、「ふれあい」をもたらしています。

農免農道の開通は新たな出会いを生み、その出会いから多くの人がつながり、それが絆となって柴田町の大きな財産となっています。



白い絨毯のような「そばの花」



田園に咲く「ひまわり」



秋を彩る沿道の「コスモス」



平成18年から植栽が続いているすいせんロード

未来への往還 しばたの道

明日への道

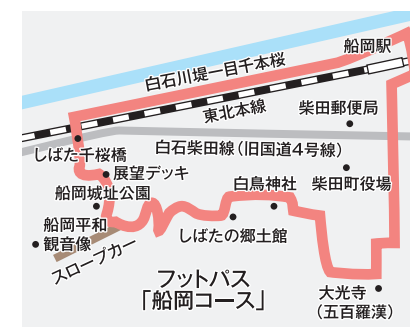
フットパス(foot path)は地域の歴史や文化を感じながら
ありのままの風景を楽しむ舞台。

柴田町には自然、文化、歴史を楽しめるポイントがいくつもある。

住民が主役となり“道”を歩き、地域の人々との交流を演出する。

それは元気でにぎわいのあるまちづくりを目指す柴田町の将来像そのもの。

過去・現在・未来をつなぐ道はその姿を変えながら町と共に歩み続ける。



神社・仏閣を巡る「船岡コース」

柴田町の自然や歴史、文化について住民でも知らないことは意外と多いかも知れません。町内を散策し、町の魅力を再発見することもあればあります。これからの柴田町に残すべき“財産”を見つける宝さがし。フットパスは素晴らしい換えることができます。

町では、フットパスコースを二つ提案しています。白鳥神社、船岡城址公園といった古からの神社・仏閣や城下町の風情を楽しめる「船岡コース」、炭釜横穴古墳群や上川名貝塚など豊かな自然と歴史ロマンが香る「槻木コース」です。

このコース以外にも、町内のどこかにあるまだ知られていない“財産”を探すのも楽しみ方の一つです。四季折々の自然と出会いながら、気軽にまち歩きができる柴田町は、まさにフットパスにふさわしい町といえます。



歴史ロマンが香る「槻木コース」

未来への往還

昭和三十一年四月一日、船岡町と槻木町が合併して誕生した柴田町。その足跡を振り返ると、いつの時代も道に活気がありました。行き交う人々の声、子どもたちの笑い声。道には心に残る思い出があり、これからもさまざまな場面をつくり続けるでしょう。

ある人は健康づくりのため仲間とともに歩き、ある人は道行く人のために花を植え、ある人は新たな景観づくりを楽しみます。そして往還(道)を通して新たな出会いが生まれ、まちに笑顔が広がります。



「しばた千桜橋」を渡り、紫陽花が美しく咲いた船岡城址公園を散策するノルディックウォーキングサークルの皆さん



「桜の小径」に八重紅しだれ桜を植栽する「柴田町さくら会」の皆さん



個人の庭園を一般開放する「オープンガーデン」



さくら歩道橋からの景観をつくる「北船岡河川敷公園の景観を良くする会」の皆さん



コミュニティガーデン「花の丘 柴田」を整備する町民の皆さん

1956 ▶ 1965



町村合併審査委員会の皆さん

戦時中に約二万人が働いていた第一海軍火薬廠は終戦とともに閉鎖、その影響で町の経済は低迷していきました。関係市町村は経済低迷の解消を図ろうと旧第一海軍火薬廠跡

昭和二十八年九月、国による町村合併促進法が公布されたのを受け、県は「宮城県町村合併促進基本計画」を作成、それにより船岡町と槻木町の合併計画は本格化しました。両町によって設立された合併促進協議会は新町建設の基本方針として「行財政を強化しながら自治の確立を図るとともに、産業の振興を強力に推進し、商工業の発展と工場誘致を図り、もって住民の福祉を増進し健全かつ平和にして民主的な文化新町の建設を図るもの」と掲げ、昭和三十一年四月一日に新たな町「柴田町」が誕生しました。

昭和三十六年に成立した低開発地域工業開発促進法によって、指定適用地域へ進出する企業には税制面で優遇措置がとられることになりました。柴田町は仙南開発地区指定促進協議会の一員として運動を開始、翌年の八月には仙南地区が低開発地域に指定されました。その後さまざまな企業が進出し、宮城県屈指の工業の町として発展する礎となりました。

昭和三十七年に柴田町は農業構造改善事業の推進を図るモデル地区の指定を受けました。富上地区水田基盤の整備や上川名ビニールハウス栽培組合が発足されるなど、生産方式による農業経営の近代化に踏み出しました。

昭和三十七年(一九六二年) 町章が決定。
昭和三十七年(一九六二年) 農業構造改善事業計画を樹立。
八月 低開発地域に指定され、工場誘致に特典が与えられる。
八月 秋野、大塚地区が、西学区画整理事業により「西住町」となる。
十一月 農業構造改善事業に着手、富上地区水田基盤を整備、上川名ビニールハウス栽培組合が発足。
昭和三十九年(一九六四年) 東京オリンピック大会の聖火リレーが町内を通過。
八月 船岡大橋が開通。
七月 国道南光大通り線完成。
八月 館前地区にライسنセンター完成。

- ### 柴田町の歴史
- 昭和三十一年(一九五六年) 町村合併審査委員会が発足、船岡町と槻木町が合併に調印。
 - 三月 町制施行柴田町が発足、柴田町消防団が発足。
 - 四月 初代町長に柴田倫之助氏が就任。
 - 五月 第一回柴田町議会を開会。
 - 七月 水書で二〇〇町歩の水田が冠水、五箇堀改修計画が請願される。
 - 七月 米軍から船岡キャンプの一部が日本に返還され引き続き自衛隊が使用。
 - 八月 県立柴田農林高校の船岡・槻木両分校が統合して「白幡分校」が創立。
 - 八月 旧第一海軍火薬廠跡地が活用促進期成同盟会が発足、船岡弾薬集積所の弾薬の最後の国外搬出作業が行われる。
 - 九月 入間田小学校・葉坂・成田両分校を統合、柴田小学校が創立。
 - 十月 柴田町防犯協会実働隊が発足、陸上自衛隊船岡駐屯地部隊が仙台市若竹にある北仙台駐屯地に移駐。
 - 六月 米軍が船岡キャンプを全面返還する。
 - 昭和三十四年(一九五九年) 船岡山公園に高さ八メートルのタワー完成、公民館主催による全戸表札掲示運動を展開、三カ年計画で下水道事業に着手、旧第一海軍火薬廠が使用した館山給水施設を活用。
 - 二月 二五〇ヶ年前の旧象の歯が並松地内で発見(ミヨコ象)。
 - 二月 船岡山公園に高さ八メートルのタワー完成、公民館主催による全戸表札掲示運動を展開、三カ年計画で下水道事業に着手、旧第一海軍火薬廠が使用した館山給水施設を活用。
 - 一月 旧第一海軍火薬廠跡地の自衛隊使用が決定。
 - 一月 船岡小学校中名生分校の校舎が完成。
 - 三月 二代目柴田町長に平間新太郎氏が就任。
 - 五月 林道(雷いかづち)線が完成、陸上自衛隊第一〇三建設大隊が愛知県豊川市から移駐。
 - 昭和三十六年(一九六一年) 仙台・福島間の国鉄電化工事が完成。
 - 二月 柴田農林高等学校定時制白幡分校の校舎が完成。
 - 五月 工場誘致第一号「株式会社特殊コンクリート工法」の進出が決定。「広報しばた」が創刊。
 - 十一月 合併五周年記念式典を開催、株式会社東北共同化学工業の出が決定。
 - 十二月 町章が決定。
 - 昭和三十七年(一九六二年) 農業構造改善事業計画を樹立。
 - 八月 低開発地域に指定され、工場誘致に特典が与えられる。
 - 八月 秋野、大塚地区が、西学区画整理事業により「西住町」となる。
 - 十一月 農業構造改善事業に着手、富上地区水田基盤を整備、上川名ビニールハウス栽培組合が発足。
 - 昭和三十九年(一九六四年) 東京オリンピック大会の聖火リレーが町内を通過。
 - 八月 船岡大橋が開通。
 - 七月 国道南光大通り線完成。
 - 八月 館前地区にライسنセンター完成。

柴田町

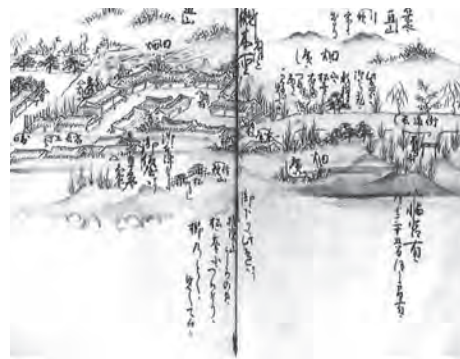
まちの歩み

先人の想いを受け継ぎ、
出会いを重ねてきた柴田の地



大光院付近の山で発見された須恵器の大甕

古代から合併前



明和年間に盛岡藩の絵師が描いた「増補行程記」(槻木町部分)

江戸時代に入ると、天和元年(一六八二)から明治維新までは柴田氏が船岡、上名生、中名生、船迫、成田、小成田、海老穴、葉坂に知行地を拝領していました。また、寛文年間(一六六一〜一六七二)には岩沼の田村左京が槻木町に属する十力村を拝領し、宝永元年(一七〇四)以降は、宮床の伊達氏が入間田・入間野を拝領していました。下名生は藩の直轄地である蔵入地で、富沢も一時一村が蔵入地でした。

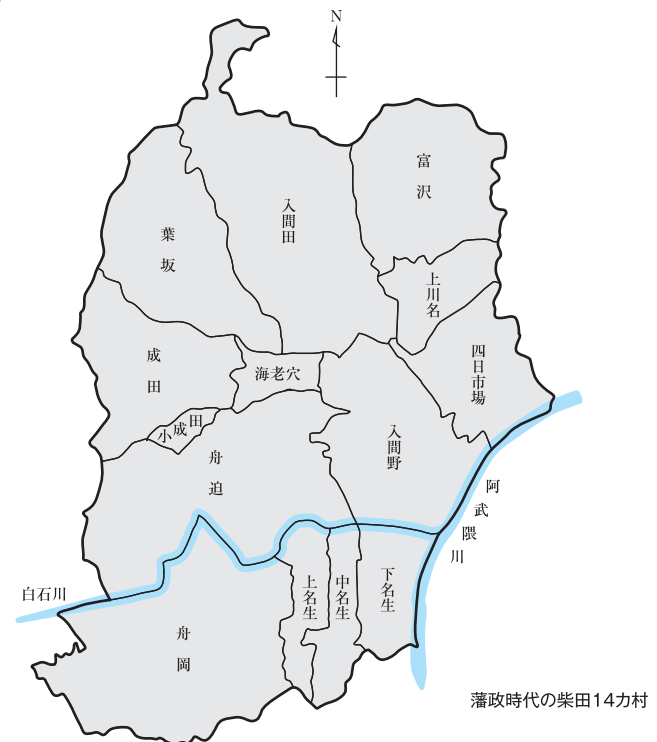
古 墳が豪族の権力の証として各地で造られていた頃、大和朝廷の勢力は全国へ及ぶものになっていました。『続日本紀』には「柴田郡の二郷を分けて刈田郡を置かしむ」との記述があり、大和朝廷の勢力がこの地方まで及んでいたことがわかります。

中世後半になると柴田郡は伊達氏の支配下に入り、戦国時代にはその家臣団が柴田町の各所に城を築いて周辺の農民を支配するようになりました。

江戸時代に入ると、天和元年(一六八二)から明治維新までは柴田氏が船岡、上名生、中名生、船迫、成田、小成田、海老穴、葉坂に知行地を拝領していました。また、寛文年間(一六六一〜一六七二)には岩沼の田村左京が槻木町に属する十力村を拝領し、宝永元年(一七〇四)以降は、宮床の伊達氏が入間田・入間野を拝領していました。下名生は藩の直轄地である蔵入地で、富沢も一時一村が蔵入地でした。

近代に入ると戊辰戦争によって仙台藩は祿高を半分以下に減封され、柴田郡を含む県南五郡は南部氏の領地となりました。船岡の人口は柴田家臣の北海道伊達市への移住や明治二十一年の大火などにより減少し、また紅花や藍が輸入品に取って代えられたことで経済的にも大きな打撃を受けました。しかし、養蚕という新たな産業への参入が功を奏し、大正十年代には槻木地区における繭の生産高は県内で一、二を争うほどになりました。

明治二十二年の町村制施行により船岡と三名生が合併して船岡村が誕生し、入間野等十力村は槻木村となりました。二年後の明治二十四年には東北本線が全線開通して槻木駅が営業を開始し、昭和四年には住民運動が実を結んで船岡駅が開設されました。昭和十四年には第一海軍火薬廠が開設されて村は活気に溢れていました。



藩政時代の柴田14力村

仙

台大学が旧陸上自衛隊船岡駐屯地跡に開校したのは、昭和四十二年四月二十五日のことです。東北、北海道では初めての体育学科を有する四年制大学として、また仙南初の大学として注目を集めました。平成七年には、全国初の健康福祉学科を開設し、健康福祉とスポーツ学の先駆的指導者を養成しています。

昭和四十三年四月二日には、待望の国鉄丸森線(槻木〜丸森間の十七・四キロメートル)が開通しました。丸森線の全線(槻木〜福島間の五〇・四キロメートル)が開通したのは昭和四十五年のことです。仙南の中心工業地帯として大手企業の工場進出が相次いでいた柴田町にとっては、通勤労働者の確保や他の経済圏との連携強化など、多くのメリットがありました。

昭和四十八年には、町の新しいシンボルである柴田町役場の新庁舎が完成しました。役

1966 ▶ 1975



仙台大学の開校



国鉄丸森線の開通



柴田町役場新庁舎の完成



船迫住宅団地の造成

場内では行政機構の改革もなされ、新体制での業務がスタートしました。

昭和四十九年になると、具長期総合計画の一端を担い、魅力ある仙南中核都市を目指す柴田町にふさわしいニュータウンの造成に着手。昭和五十四年三月には工事が完了し、船迫住宅団地には、一六〇戸(六、〇〇〇人居住)の宅地、公園、教育施設などの公共施設用地が確保されました。

うになり、近隣市町からの顧客も増加するようになりました。

町民が久しく待望した「柴田大橋」が開通したのは、昭和五十七年四月十七日のことです。柴田大橋とともに左岸取り付け道路工事も完成し、白石川の両岸地区を結ぶ主要ルートの確立が町の発展に大きく貢献しました。

仙南地区の発展に伴い、主要幹線道路の交通量が急増する中、市街地の渋滞緩和のために、国が国道四号バイパス工事に着手したのは昭和四十二年のことです。昭和六十年十二月十二日には柴田バイパスの全線暫定二車線が開通しました。仙南地区の交通の大動脈ともいべき柴田バイパスの開通は、船岡・槻木地区の渋滞を緩和するとともに、地域の活性化に大きく貢献することになります。

都

市部で公害や環境破壊が問題視され始めた頃、柴田町にある豊かな自然環境を保全して、農村と都市の交流の場にしようという願いから、昭和五十二年六月五日、自然休養村「太陽の村」が開校しました。開校当日は約三、〇〇〇人が訪れ、四ヘクタールもの広大な芝生の上で、思い思いに自然を満喫していました。現在は町のイベント会場にも活用され、自然とふれあう憩いの広場として親しまれています。

1976 ▶ 1985

昭和五十五年十一月には、町の商業振興を担う新しいショッピングセンターとして、町内初の大型小売店「サンコア」が開店しました。このショッピングセンターの誕生により、町民の地元消費が図られるよ



「太陽の村」の開校



「サンコア」が開店



柴田バイパスの開通

柴田町の歴史

- 昭和四十一年(一九六六年) 二 町内小中学校の学校給食を開始(給食能力は約五、〇〇〇人)。
- 四 合併一〇周年記念式典を開催/町内初の児童館(羽山児童館)が開館/神明堂地区を工業団地として買収。
- 昭和四十二年(一九六七年) 三 交通指導線が発定/雨乞のイチョウが国の天然記念物に指定される。
- 四 仙台大学が旧陸上自衛隊船岡駐屯地跡地に開校/宮城県立船岡養護学校が旧船岡鉄道病院跡地に開校。
- 五 株式会社東北リコー誘致決定。
- 七 株式会社明電工業誘致決定。
- 九 船岡八ツ組合が発定/国鉄槻木〜船岡駅間の複線工事が完成。
- 昭和四十三年(一九六八年) 二 船岡小学校前に横断歩道橋が完成。
- 四 国鉄丸森線開通。横橋駅を開設/柴田児童館が開館。
- 五 株式会社山崎製パン、仙台工場が操業開始。
- 七 林道一雨之瀬が完成。
- 昭和四十四年(一九六九年) 一 柴田町消防庁舎が完成。
- 二 船岡中学校新校舎完成。
- 三 三名児童館が開館。
- 五 槻木公民館が開館。
- 六 果実選果場がライスセンター前に完成。
- 十二月 柴田町観光協会設立/東北電力仙南変電所が富沢地区に完成/炭釜橋穴古墳群(四日市場)を発掘。
- 昭和四十五年(一九七〇年) 一 NHK大河ドラマ「樫ノ木は残った」が放映開始。
- 二 船岡城址公園の道路・駐車場・観光資料館・リフトカーが完成。
- 三 柴田町民体育館が完成。
- 四 柴田町民体育館。柴田町公民館が完成。
- 六 西住児童館が開館/第一回菊人形まつりが開幕。
- 昭和四十六年(一九七一年) 一 柴田町育英会が発定。
- 二 柴田中央集会所が完成/昭和六十年度を目標にした「町勢発展基本構想」が樹立。
- 四 社会福祉法人柴田町社会福祉協議会が発定。
- 昭和四十七年(一九七二年) 三 館前生活共同利用センターが完成/槻木バイパスが開通。
- 十 東北新幹線愛宕山トンネルの建設工事に着手。
- 昭和四十八年(一九七三年) 一 森合横穴古墳群(本船迫字森合)を発掘調査。
- 四 船岡保育所が開所/勤労青少年ホーム(四保館)が完成/海老穴生活文化センターが完成。
- 十二月 大干ばつにより水稲に被害続出。
- 昭和四十九年(一九七四年) 一 役場新庁舎が完成。
- 四 四日市場生活共同利用センターが完成。
- 八月 町史編さん委員会設置。
- 昭和五十年(一九七五年) 一 心身障害児施設「むつみ学園」が開園/雇用促進住宅柴田宿舎が根形地区に完成。
- 二 地域休日診療制度を三町(大河原町、村田町、柴田町)で実施/町のシンボル決定。町の木「もみの木」町の花「さくら」町の鳥「きじ」。
- 十二月 町制一〇周年記念産業文化展を開催。
- 十一月 船岡平和観音の開眼法要。

柴田町の歴史

- 昭和五十一年(一九七六年) 三 三代目町長に水戸繁雄氏が就任。
- 四 第一幼稚園が開園/町制二〇周年記念式典を開催。
- 五月 柴田町が東北一の菊の産地に。
- 八月 町の住民登録者数が三万人を突破/槻木小学校新校舎が完成。
- 十月 山下児童公園が完成/冷害で三徳田の被害発生。
- 昭和五十二年(一九七七年) 一 自然休養村「太陽の村」が上野山に開校。
- 六月 柴田バイパスの一部開通。
- 十二月 本船迫字若の入、立石の二・二キロメートル。
- 昭和五十三年(一九七八年) 一 槻木保育所が槻木小学校跡地に完成/館前住宅団地の造成に着手。
- 五月 十二日午後五時十五分頃に宮城県沖地震が発生/ブロック塀倒壊などの被害が続出。
- 七月 町民グラウンドが完成/四代目町長に平野博氏が就任。
- 昭和五十四年(一九七九年) 二 船岡駅開業五〇周年記念式典を開催。
- 七月 第一回しばたこともまつりを開催。
- 昭和五十五年(一九八〇年) 一 船迫小学校が開校。
- 四月 町内の大型小売店「サンコア」が開店/新町、袋町集会所が完成。
- 昭和五十六年(一九八一年) 一 学校給食センターが船迫地区に完成/富上児童館が富上分校跡地に完成。
- 五月 槻木体育館が槻木小学校跡地に完成。
- 七月 船岡駅構内自由通路が開通/柴田町商工会館が完成。
- 十二月 船岡体育館が完成。
- 昭和五十七年(一九八二年) 一 柴田大橋が開通。
- 四月 船岡城址公園と一目千本桜が東北観光地六〇景に選ばれる。
- 十月 三年連続の不作/槻木で緑化推進事業記念植樹祭開催。
- 昭和五十八年(一九八三年) 一 西住小学校が開校/西船迫保育所が開所/「広報しばた」お知らせ発行が始まる。
- 七月 農村環境改善センター開館。
- 九月 「柴田町史」資料編一発刊。
- 昭和五十九年(一九八四年) 三 船岡駅前町営住宅完成。
- 四月 町保健センターが完成。
- 八月 太陽の村に天体望遠鏡設置/柴田町コミュニティセンターが開館。
- 昭和六十年(一九八五年) 一 柴田町環境美化の促進に関する条例を制定。
- 四月 柴田高架橋が開通し柴田大橋に接続。
- 十一月 柴田バイパスが全線開通。
- 十二月 柴田バイパスが全線開通。

柴

田町にはかねてより高等学校設置の願いがあり、これを具体化する動きとして昭和四十七年「県立高校誘致促進期成同盟会」を発足しました。積極的な高校誘致運動の結果、ついに宮城県柴田高校の設置が決定、普通科四クラスの他、県内初めての体育科が二クラス設置され、全県学区制で推薦制度が導入されました。



宮城県柴田高校の開校



新船岡駅舎の完成

1986 ▶ 1995

昭和五十一年に「生涯教育モアル町」の指定を受けた柴田町は、生涯学習の推進を図るためさまざまな施設整備を行いました。その一方で学習成果を発表できる施設や芸術作品を鑑賞できるホールはなく、その



榎木文化センターの完成

船岡駅の乗客数は第一海軍火薬廠の閉廠と、高度経済成長による自家用車の所有数増加の影響により伸び悩んでいました。船岡駅舎の改修や集客方法を検討していた東日本旅客鉄道株式会社と船岡駅前活性化を検討していた町は、新駅舎建設共同事業を開始。平成二年八月四日には建設費三億六、〇〇〇万円を投じて町コミュニティプラザを併設した新船岡駅舎が完成しました。

昭和五十七年に「生涯教育モアル町」の指定を受けた柴田町は、生涯学習の推進を図るためさまざまな施設整備を行いました。その一方で学習成果を発表できる施設や芸術作品を鑑賞できるホールはなく、その

平成七年七月七日、かねてより望まれていた阿武隈川兩岸を結ぶ榎木大橋が完成。これにより江戸時代前から続く「小山渡し」は長い歴史に幕を閉じ、榎木大橋は阿武隈川兩岸を結ぶ新しい交通手段として住民の生活圏を拡大させました。

平

成八年は柴田町が誕生して四〇周年という節目の年であり、その発展を祝って町ではさまざまな記念行事が行われました。中でも「柴田武者行列」は町民約二五〇人が武者装束で参列し、大きな盛り上がりを見せました。



柴田武者行列の開催



第56回国民体育大会の開催

柴田町では平成十一年十月、優良田園住宅事業を推進するための基本方針を定めました。平成十二年五月十一日、全国初の認定事業となった入間田内の優良田園住宅「ゆずが丘」の建設起工式が行われました。同年十一月三日には第一期、四十区画の販売が開始され、柴田町の自然を生かしたゆとりある住宅地が誕生しました。

平成十三年に第五十六回国民体育大会「新世紀・みやぎ国体」が県内各地を会場に開催されました。柴田町では夏季大会水球競技と秋季大会ウエイトリフティング競技の開催が決まり、多くの町民ボランティアや競技関係者の協力で大会を盛り上げました。

1996 ▶ 2005

柴田大橋と白幡橋の交通量が増加し、朝夕の渋滞が大きな課題となっていました。中間地点への橋の新設が望まれる中、町では住宅関連の整備事



「さくら船岡大橋」の開通

柴田町の歴史

- 昭和六十一年（一九八六年）
 - 三月 上川名構造改善センター完成。
 - 四月 宮城県柴田高校が開校。町制施行三〇周年記念式典を開催。
 - 五月 総合運動場が完成。
 - 九月 第三セクター阿武隈急行線が先行開業。榎木丸森間。
 - 十一月 町制施行三〇周年記念「しばたフェスティバル」メモリアル三〇を開催。
 - 十一月 第一回あぶくまサミットを開催。町制三〇周年記念「仮装大会」を開催。
- 昭和六十二年（一九八七年）
 - 四月 船岡中学校が開校。
 - 八月 太陽の村開村一〇周年記念まつり開催。
 - 昭和六十三年（一九八八年）
 - 三月 第一回柴田町民綱引大会を開催。
 - 三月 東船岡小学校が開校。
 - 六月 宮城県沖地震から十年を機に二六・一二柴田町総合防災訓練を実施。
 - 七月 阿武隈急行線全線開通。
 - 平成元年（一九八九年）
 - 二月 仮称「小山大橋」の架橋工事に着手。
 - 二月 町道船迫一四号線・二号線の道路改良工事が完成。
 - 八月 第一幼稚園の園舎が完成。
 - 平成二年（一九九〇年）
 - 三月 船岡城址公園・白石川堤がさくら名所一〇〇選の地に選ばれる。
 - 三月 船岡駅舎が完成。
 - 平成三年（一九九一年）
 - 一月 JR東北本線榎木駅開業一〇周年記念式典を開催。
 - 四月 ふるさと文化伝承館がオープン。
 - 六月 柴田小学校落成記念式典を開催。船迫公民館が完成。
 - 八月 「広報しばた」三〇周年記念号を発行。
 - 平成四年（一九九二年）
 - 五月 西住公民館が開館。柴田高校に県内初の室内プール完成。
 - 五月 三町共同推進事業協議会設立。
 - 十一月 船岡二一号線（大沼通り線）開通式。
 - 平成五年（一九九三年）
 - 四月 資料展示館「思源閣」開館。
 - 五月 資料展示館「思源閣」開館。
 - 平成六年（一九九四年）
 - 四月 しばたの郷土館の全施設が完成し、開館式。
 - 九月 二十二日の局地豪雨で総額十三億円の被害。
 - 十一月 94スポーツフェスティバル柴田を開催。
 - 平成七年（一九九五年）
 - 三月 町道下名生二八号線開通式。町道船迫二一線・都市計画道路大橋通線開通式。
 - 四月 榎木文化センターの落成開館式。
 - 七月 榎木大橋の開通式と小山渡し舟納め式を盛大に挙げる。
 - 八月 柴田町制施行四〇周年記念「AZ9アートフェスティバル」しばたを開催。
 - 九月 旧第一海軍火薬廠追憶五〇周年記念大会が挙行。
 - 十一月 全日本菊花コンクールが柴田町民体育館ほかで盛大に開催。伊達開拓「ふるさと従兄弟（い〜と）」サミットが柴田町を会場に開催。

柴田町の歴史

- 平成八年（一九九六年）
 - 四月 町制施行四〇周年記念式典を開催。
 - 十月 仙南芸術センター（えずこホール）落成記念式典。船岡東部土地画整備事業が完工。
 - 十一月 しばたシネマまつり開催。
 - 十二月 山下町営住宅が完成。大河原衛生センターが完成。
 - 平成九年（一九九七年）
 - 二月 柴田町行政改革大綱を策定。
 - 四月 産業展示館に工業製品展示室がオープン。
 - 七月 三町が組合立総合病院建設に合意。
 - 平成十年（一九九八年）
 - 二月 東船岡コミュニティセンターが開館。
 - 四月 横町・船迫コミュニティ消防センターが開館。
 - 六月 県内初の柴田町男女共同参画都市を宣言。榎木駅舎が完成。
 - 平成十一年（一九九九年）
 - 一月 太陽の村に総合交流ターミナル施設が完成。
 - 一月 柴田町スポーツ都市宣言。
 - 七月 小室達生誕一〇〇周年記念展開催。
 - 十一月 第一回しばた新そばまつり開催。
 - 平成十二年（二〇〇〇年）
 - 八月 県南中核病院の建設に着手。まちづくりフォーラム開催。
 - 十一月 優良田園住宅「ゆずが丘」第一期販売開始。
 - 平成十三年（二〇〇一年）
 - 三月 さくら歩道橋開通式。
 - 四月 柴田町地域福祉センター開所式。
 - 九月 みやぎ国体開幕。夏季大会水球競技会開催。
 - 十月 みやぎ国体秋季大会ウエイトリフティング競技会開催。
 - 平成十四年（二〇〇二年）
 - 五月 船岡児童クラブ開設。
 - 六月 みやぎ県南中核病院落成式。
 - 七月 台風六号で大被害。五代目町長に滝口茂氏が就任。
 - 十二月 町民で構成する「柴田町まちづくり委員会」が発足。三町（柴田・村田・大河原）合併協議会を設置。
 - 平成十五年（二〇〇三年）
 - 四月 齊藤博記念文庫が開館。
 - 十二月 光のページェント&よさこいinしばたを開催。
 - 平成十六年（二〇〇四年）
 - 十月 長野スペシャルオリンピックスを支援する「五〇〇万人トーチラン（聖火リレー）」が町を通過。
 - 平成十七年（二〇〇五年）
 - 三月 大河原町が合併協議会離脱のため三町合併協議会が解散。
 - 六月 新生しばた行政改革「住民懇談会」を開催。
 - 十一月 さくら船岡大橋開通。

柴田町

この10年

2006
—
2007

昭 三十一年四月一日に船岡町と榎木町が合併して誕生した柴田町。平成十八年は、柴田町が誕生して五〇周年という節目の年。より住みやすいまちづくりを目指して、新たな未来へ歩み始めました。

平成十九年四月一日には、船岡中学校から仙台大学まで(船岡中央三丁目から船岡字七作まで)を結ぶ、全長九〇メートルの都市計画道路「新栄通線」が開通しました。



新栄通線開通

これにより南光大通線と大沼通線が東西に結ばれ、「さくら船岡大橋」経由で国道四号柴田バイパスまでのアクセスが改善されました。また、両側に設置された幅四・五メートルの歩道は、朝夕のウォーキングコースにもなっています。

子どもたちの健やかな成長を願って、船岡保育所が完成したのも平成十九年四月のことです。木の温もりが溢れ太陽の光をいっぱいにする保育室や、広くゆったりとした遊戯室。一時保育用の部屋を設けることで、多様な保育ニーズに対応した安心・安全な保育サービスの提供が可能となりました。



新設された船岡保育所



木質調のやさらかな船岡保育所の室内

磨きかけながらも連携し、持続的な発展を希求すべきと考えます。」

平成二十年十月五日には「第一回しばた産業フェスティバル」および「第一回もったいない町民大会(環境フェア)」が開催されました。船岡小学校の校庭で行われた「第一回しばた産業フェスティバル」では、農工商連携による新たな産業の創出を目指し、地場産業・産品などが紹介されました。また、柴田町民体育館で行われた「第一回もったいない町民大会(環境フェア)」では、ごみ問題や環境問題への取り組みなどが紹介されました。

平成二十一年は、新型インフルエンザが大流行した年です。柴田町内でも感染拡大防止のため、九月から十一月に予定されていたイベント等の開催が自粛されました。

平成二十一年一月には、柴田町地域活動支援センターが開所。障がいを持っている方の生産活動や地域との交流の場として、しらすぎ共同作業所が新しくなりました。

平成二十一年十一月に、観光資源と地場産品の振興を図り、太陽の村と船岡城址公園を観光拠点と位置付け、地域経済および文化の発展・向上に寄与する事業を展開するため、柴田町観光協会と太陽の村運営組合が機能統合し、新たに「一般社団法人柴田町観光物産協会」が設立されました。

柴田町の歴史

■平成十八年(二〇〇六年)
四月▼町制施行五〇周年/財政状況改善のため、財政再建プランの策定が始まる/新栄集会所落成。



新栄集会所落成

十月▼柴田町住民自治基本条例をつくる会が発足。

■平成十九年(二〇〇七年)
四月▼新栄通線開通/船岡保育所が完成。
十月▼まちの図書館設置検討会が発足。



まちの図書館設置検討会

柴田町の歴史

■平成二十年(二〇〇八年)
一月▼戸籍事務がコンピュータ化される。
三月▼柴田町勤労青少年ホーム閉館。
四月▼柴田町入間田テニスコートオープン。



入間田テニスコートオープン

八月▼(仮)柴田町住民自治によるまちづくり基本条例の案が町長へ提出される/柴田町・村田町・大河原町合併協議会設置。
十月▼第一回しばた産業フェスティバル開催/第一回もったいない町民大会(環境フェア)開催。

■平成二十一年(二〇〇九年)
一月▼しらすぎ共同作業所が柴田町地域活動支援センターしらすぎとして新しく開所。

四月▼柴田町臨時議会で合併協議会からの離脱を採決。賛成十反対七で離脱することが決定/北船岡集会所落成。
十一月▼柴田町観光物産協会設立。



第1回しばた産業フェスティバル



第1回もったいない町民大会(環境フェア)

2008
—
2009

三 町合併に向けて、平成二十年八月八日に、柴田町・村田町・大河原町合併協議会が設置されましたが、翌年の四月には合併協議会からの離脱が決定しました。

今後の三町について滝口町長は、次のように述べています。
「少子高齢化を迎えて、子どもや孫に豊かな社会、住みよい町を残していくためには、合併によって住民と行政との距離を広げてはならないと思っています。住民の声を鏡のように行政に反映させ、住民、企業、地域団体との協働によるまちづくりを進めることが大切です。今後とも三町はそれぞれの個性に



3町合併協議会(平成21年4月に離脱)



給水を待つ町民



ライフラインの復旧作業

2011年 東日本大震災

平成二十三年三月十一日、午後二時四十六分。三陸沖を震源とする東日本大震災が発生しました。震源の深さは約二十四キロメートルで、地震の規模を示すマグニチュードは国内観測史上最大の九・〇を記録しました。柴田町においては、震度五強を観測し、学校や公共施設、道路、上下水道、農業施設などに甚大な被害を受けました。町内全域で停電し、電話は不通、水道管の損傷による断水など、ライフラインが機能しなくなりまし。また、道路の寸断や土砂崩れなどによる通行止め、建物の崩壊などの被害も発生しました。



多くの下水道マンホールが隆起



液状化現象により道路が陥没



災害対策本部



山のように積まれた震災ごみ



JR東北本線が復旧するまで臨時バスを運行



町医師団による健康相談

東日本大震災発生後の対応

- 三月十一日
 - ・柴田町災害対策本部を設置。自衛隊の災害派遣を要請する。
 - ・町内の施設六カ所に避難所を開設。給水車による飲料水の給水を開始する。
 - ・行政区長会議を開き、町からの情報提供と行政区長から意見や要望を聞く。
 - ・一部の地域で電気が復旧する。
 - ・町内全域で電気が復旧する。
- 三月十五日
 - ・町内六カ所の避難所を閉鎖し、新たに「太陽の村」を避難所として開設する。
 - ・防犯実動隊によるパトロールを実施する。
 - ・役場の窓口業務を再開する。
 - ・県広域水道から山田沢浄水場に通水される。
- 三月十九日
 - ・船岡地区の一部で水道の通水が始まる。
- 三月二十日
 - ・被害が甚大な山元町へ職員を派遣。巨理町、山元町、福島県新地町へ救援物資を届ける。
 - ・町内のほぼ全域で電話が復旧する。
 - ・農業用水路に試験通水を行う。
 - ・し尿の収集が可能になる。
- 三月二十四日
 - ・災害緊急輸送バスの運行を開始する。
 - ・災害ごみの一時集積所を柴田町総合運動場に設置する。
 - ・松ヶ越地区でガスの供給が再開する。
- 三月二十六日
 - ・町内のほぼ全域で水道が復旧する。
- 三月二十九日
 - ・緊急避難住宅（雇用促進住宅）入居の受付を開始する。



町民の手づくりによる柴田町図書館



第1回柴田町子どもフェスティバル

2010 - 2011 町

では、これまでもたくさんの人たちが関わってまちづくりを進めてきました。今後、さらにもちづくりを発展させるためには、住民自治の確立が不可欠です。

平成十四年に柴田町まちづくり委員会を設置、平成十六年からは条例制定の必要性を検討する住民自治基本条例検討委員会が結成され、平成十八年には公募住民と町職員による柴田町住民自治基本条例をつくる会が発足し、条例づくりに向けての一步を踏み出しました。

平成二十二年二月の町議会定例会に条例案を上程し一度否決されましたが、町の住民自治を育てていくための推進力となる本条例は必要不可欠のことから、条例案に修正を加えた上で、同年九月の町議会定例会に再上程されました。議会は条例審査特別委員会を設置、条例案を慎重に審査し、修正案をまとめ、同年十二月の町議会定例会で修正案が可決され、平成二十二年四月一日から「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」が施行されました。

しばたの郷土館・ふるさと文化伝承館内に

待望の柴田町図書館がオープンしたのは、平成二十二年五月のことです。本の寄贈者ら多くの人の思いがこもった「自分たちの図書館」として、図書の出し入れはもろろんこと、毎月テーマを替えてさまざまな催しを開催しています。全国の公立図書館とのネットワークを通じて、他の公立図書館から本を借りることも可能となりました。

平成二十三年三月、東日本大震災が発生し、柴田町では最大震度五強を観測しました。同年九月には台風一五号により甚大な被害に見舞われ、災害の多い一年となりました。

こうした中、柴田町の新名所として、「樅ノ木は残った展望デッキ」が平成二十三年十月にオープン。十一月には「第一回柴田町子どもフェスティバル」が農村環境改善センターで開催され、約八〇〇人の親子が参加しました。



樅ノ木は残った展望デッキ完成

柴田町の歴史

- 平成二十二年(二〇一〇年)
 - 二月 ▼ しばたまち交流ひろば「ゆる・ぶら」オープン。
 - 四月 ▼ 柴田町児童デイサービス施設むつみ学園が完成。四日市場沖集会所落成。柴田町住民自治によるまちづくり基本条例施行。
 - 五月 ▼ 柴田町図書館開館。
 - 十一月 ▼ 花のまち柴田千人植栽開催。

- 平成二十三年(二〇一一年)
 - 三月 ▼ 東日本大震災発生M九・〇。柴田町最大震度五強。
 - 五月 ▼ 柴田町観光物産交流館「さくら」の里オープン。
 - 六月 ▼ まちづくり推進センターオープン。
 - 八月 ▼ 第一回しばた日級グルメグランプリ開催。
 - 九月 ▼ 台風一五号による甚大な被害。
 - 十月 ▼ 樅ノ木は残った展望デッキオープン。東北こども博開催。
 - 十一月 ▼ 第一回柴田町子どもフェスティバル開催。



東北こども博



第1回しばた曼珠沙華まつり



花のまち柴田イメージキャラクター「はなみちゃん」のデビューイベント



第1回しばた紫陽花まつり



桜の花を同じ目線で楽しめる「しばた千桜橋」

2012 — 2013

平

成二十四年は、交流人口の増加によるにぎわいの創出と地域の活性化を図るため、町が新たに動き始めた年でもあります。

東日本大震災により、自粛となっていた「しばた桜まつり」が二年ぶりに開催され、約二〇万人が来場しました。七月には、観光や広報の一翼を担う花のまち柴田イメージキャラクターの「はなみちゃん」が誕生しました。

八月には、新たな公共交通としてデマンド型乗合タクシー「はなみちゃんGO」の運行が始まりました。

平成二十四年十一月には、「第一しばた柚子フェア」を柴田町太陽の村で開催。自生する柚子の北限地とされる雨乞地区特産の柚子を求めて約三、〇〇〇人が来場し大盛況のイベントとなりました。

老朽化した二本杉町営住宅に替わる町営住宅として、平成二十二年度から建設が始まった北船岡町営住宅二号棟が十二月に完成し、八階建ての建物に四十七戸の新たな住まいが整備されました。



槻木中学校新校舎

震災以降、児童・生徒の安全・安心確保のため、学校施設の耐震対策が求められるようになりました。昭和三十一年に建てられた槻木中学校校舎は、耐震基準を満たしていないため建て替えることになり平成二十五年三月に新校舎が完成しました。新校舎は、町内の施設では初となる太陽光発電設備が備わり環境学習での活用・災害対策・消費電力の低減が図られています。また、生徒の健康管理のため、図書室などには空調設備も完備されています。

平成二十五年は、住民参加によるまちづくりが着々と展開されました。ノルディックウォーキングを楽しむ団体「さくらウォーカーズ」が中心となり植栽した曼珠沙華が咲き、九月には「第一しばた曼珠沙華まつり」が船岡城址公園で開催され、約二万、〇〇〇人が来場。翌十月には、町民が立ち上げた実行委員会による「第一しばた匠まつり」が柴田町太陽の村で開催され、全国各地から陶芸や皮工芸、木工などの職人が集うイベントに約六、〇〇〇人が来場しました。



北船岡町営住宅2号棟

2014 — 2015

平

成二十六年六月に、「第一しばた紫陽花まつり」が開催され、約二万二、〇〇〇人が船岡城址公園に足を運びました。町民が植栽した紫陽花は町の新たな観光資源になりました。

平成二十七年三月には、「しばた千桜橋」がプレオープンしました。船岡城址公園と白石川堤の間にはJR東北本線や県道があり、両方の桜を見るには船岡駅の周辺を迂回する必要があります。長さが八十七メートル、幅員三メートルの歩道の開通により直接行き来できるようになりました。

先人たちが植えた美しい桜が、永遠に咲き誇って欲しいという願いを込めたこの橋は、町の新しいシンボルとなっています。樹齢百年の桜並木と「樅ノ木は残った展望デッキ」を結ぶ桜の回廊には、県内外から多くの観光客が訪れています。



第1回みちのく招福まつりinしばた



船迫子どもセンター開所式

「しばた千桜橋」とともに、船岡城址公園山頂には県産材で建てられた「里山ガーデンハウス」もオープンしました。町民の憩いの場として多くの人に親しまれています。

柴田町の歴史

- 平成二十四年(二〇二二年)
 - 四月▼震災の影響で二年ぶりにしばた桜まつり開催/六年ぶりに柴田さくらマラソン開催。
 - 六月▼第二十七区集会所落成。花のまち柴田イメージキャラクター「はなみちゃん」誕生/家庭ごみの有料化が始まる。
 - 八月▼デマンド型乗合タクシー「はなみちゃんGO」運行開始。
 - 十一月▼第一回柴田町行政区対抗玉入れ大会開催/第一回しばた柚子フェア開催。
 - 十二月▼北船岡町営住宅二号棟完成。



船岡新栄4号公園

- 平成二十五年(二〇二三年)
 - 三月▼船岡新栄四号公園完成/槻木中学校新校舎完成。
 - 八月▼第一回柴田町チャリティカラオケ東西対抗開催。
 - 十一月▼第一回柴田町チャリティカラオケ東西対抗開催。
 - 十月▼第一回しばた匠まつり開催。
 - 九月▼第一回しばた曼珠沙華まつり開催。

柴田町の歴史

- 平成二十六年(二〇二四年)
 - 四月▼健康づくりポイント事業開始。
 - 六月▼第一しばた紫陽花まつり開催。
 - 七月▼船迫子どもセンターがオープン。
 - 十一月▼三名児童館新築/第一回みちのく招福まつりinしばた開催。



三名児童館

- 平成二十七年(二〇二五年)
 - 三月▼しばた千桜橋プレオープン/里山ガーデンハウスオープン/槻木小学校プール(浄水装置)付き完成。

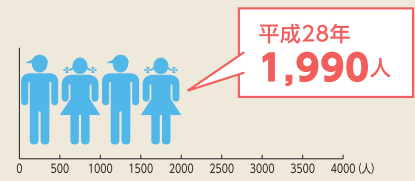


里山ガーデンハウス

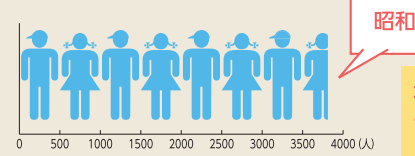
- 九月▼関東・東北豪雨に見舞われる。

学校数・児童生徒数

〔小学校の児童数〕



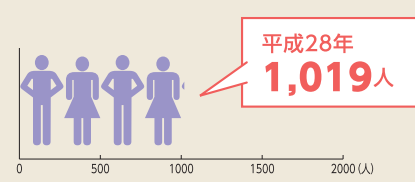
- 船岡小学校
- 槻木小学校
- 柴田小学校
- 船迫小学校
- 東船岡小学校
- 西住小学校



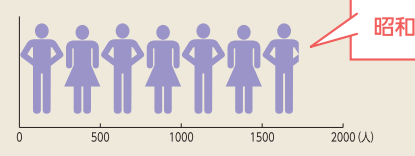
当時は8つの小学校のうち5校が分校でした

- 船岡小学校
- 中名生分校
- 船迫分校
- 槻木小学校
- 富上分校
- 葉坂分校
- 成田分校
- 入間田小学校

〔中学校の生徒数〕



- 船岡中学校
- 槻木中学校
- 船迫中学校

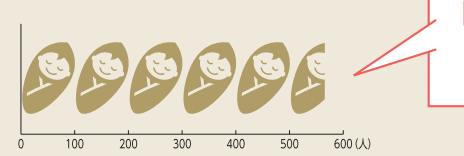
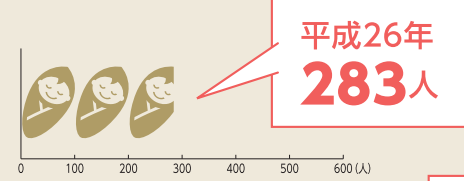


- 船岡中学校
- 槻木中学校

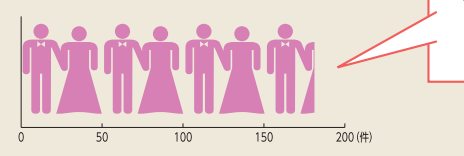
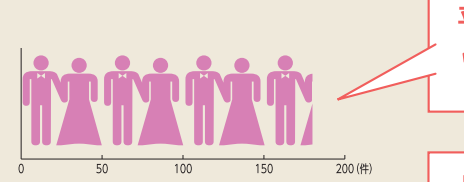
〔出典〕◎昭和31年学校基本調査(昭和31年5月1日時点)
○平成28年学校基本調査(平成28年5月1日時点)

出生数・婚姻数

〔1年間の出生数〕



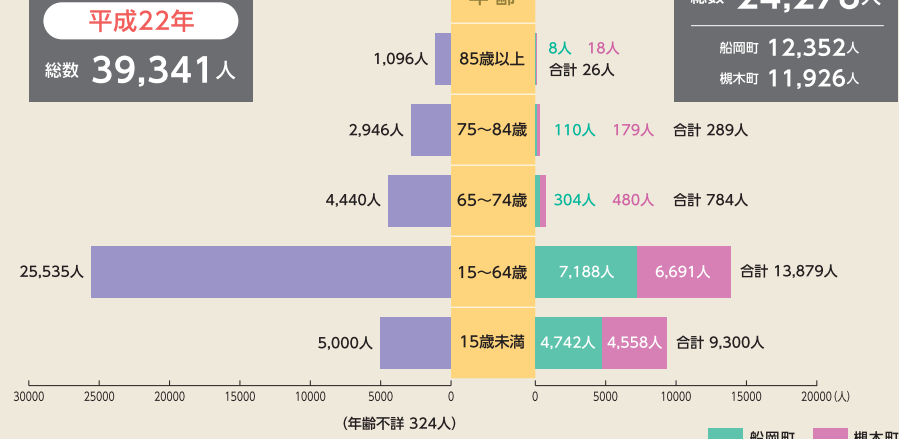
〔1年間の婚姻数〕



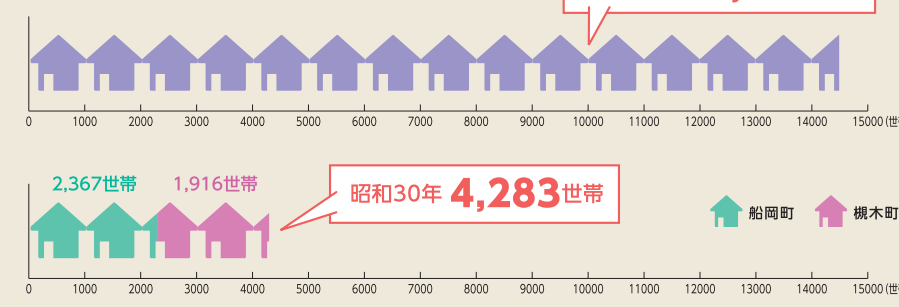
〔出典〕◎昭和31年人口動態統計調査
○平成26年人口動態統計調査

人口・世帯数

〔人口〕



〔世帯数〕



〔出典〕◎昭和30年国勢調査(昭和30年10月1日時点)
○平成22年国勢調査(平成22年10月1日時点)

昭和30年代の

柴田町

昭和三十一年、船岡町と槻木町が合併して誕生した柴田町。合併当時の柴田町をさまざまなデータや写真を通じて紹介します。

昭和三十七年



■昭和37年3月、入間田地区に婦人防火クラブが発足

昭和三十六年



■昭和36年8月、広報しばた創刊号を発刊

昭和三十五年



■昭和35年3月、船岡小学校中名生分校の校舎が完成



■昭和35年、船岡小学校へ入学した1年4組の皆さん

昭和三十四年



■昭和34年10月、船岡小学校校庭で行われた第1回町民体育祭



■昭和34年、岸首相が船岡、槻木を遊説

昭和三十三年

■昭和33年3月、入間田小学校、葉坂・成田両分校を統合し、柴田小学校が創立



昭和三十二年



■昭和32年4月、県立柴田農林高校の船岡、槻木両分校を統合し、白幡分校が創立



■昭和32年7月、豪雨のため五間堀堰堤が決壊

昭和三十年



■昭和30年の銀座通り商店街の七夕飾り



■昭和30年頃の船岡映画劇場



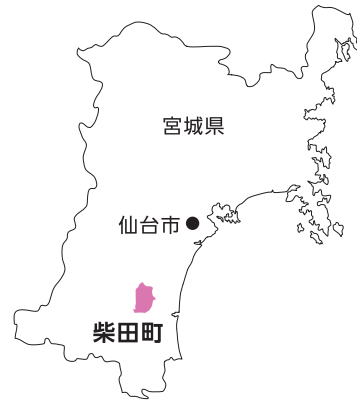
■昭和30年頃の槻木小学校校舎

町の概要

柴田町は仙南地域の北東部に位置しています。町の中央部を白石川が流れ、町の東部で阿武隈川と合流しています。船岡町と槻木町が合併したのは昭和31年のこと。船岡町は城下町として栄え、槻木町は宿場町として栄えてきました。現在の柴田町は仙台都市圏と隣接し、国道4号柴田バイパスやJR東北本線、阿武隈急行線など交通の便がよいこともあり、仙台のベッドタウンとして発展しています。

また、先端技術や機械、電気、食料品等の工場が進出し、工業生産でも県内有数の規模を誇っています。商業についても大規模店の出店等により集積度を高めており、農業では稲作をはじめ、四季折々の花きの栽培が盛んなことから、町の特産品として県内外へ多く出荷しています。

船岡城址公園、白石川堤の一目千本桜は全国でも屈指の桜の名所であり、毎年多くの観光客が訪れています。平成27年3月には、この2カ所を結ぶ念願の「しばた千桜橋」が開通。さらに船岡城址公園は、紫陽花や曼珠沙華、菊といった季節の花で彩られ、「花のまち柴田」を象徴する観光拠点として、ますますにぎわいを見せています。



町章

町章は柴田の2字を図案化したもので、柴田町の興隆を象徴しています。この町章は昭和36年12月20日、町民から募集した作品をもとに制定しました。力強く飛翔する柴田町をデザインしたものです。



町の花 さくら

春になると船岡城址公園や白石川堤に淡紅色の可憐な花を咲かせる「さくら」。町もさくらのように、末代まで親しみ愛されるようにと制定されました。



町の木 もみの木

大河ドラマ「樞ノ木は残った」の放映で町民にとってもなじみのある「もみの木」。町ももみの木のように、大空に向かって一直線に伸びるようにと制定されました。



町の鳥 きじ

母性愛が強く、美しい姿が柴田町を象徴しているような「きじ」。町もきじのように、いつまでも美しく慈しまれるようにと制定されました。

町民憲章 昭和51年1月1日制定

わたくしたちは、豊峰蔵王のきよらかな姿を朝な夕な仰ぎ、心豊かに育ち、恵まれた自然と誇りある歴史と伝統のうえに、お互いの心と心のふれあう、活力に満ちた緑の住みよい、ふるさとをつくる道しるべとして、ここにこの憲章を定めます。

- わたくしたちは、心を見がきからだをきたえます。
- わたくしたちは、明るく楽しい家庭をつくります。
- わたくしたちは、おたがいに立場を重んじあいます。
- わたくしたちは、元気で働くことをほこりします。
- わたくしたちは、自然を愛し高い文化をそだてます。



町制施行60周年記念誌 発刊によせて



次なる成長発展のステージへ

柴田町は、昭和三十一年四月に船岡町と槻木町が合併して誕生しました。それから六十年、人間でいうならば還暦を迎えることになりました。改めて、今日まで町の発展に寄与してこられた幾多の先人たちが町民の皆様のご尽力に対し、深く感謝申し上げたいと思います。

柴田町の人口は、平成二十七年の国勢調査速報値では、平成二十二年と比較して一九二一人増加の三万九、五三三人となり、仙南二市七町で最多となりました。さらに、将来の発展を見据えた観光まちづくりへの積極的な先行投資によって、平成二十七年の観光客入込数が五十四万人を超えました。定住人口の増加や観光客の伸びは、「花のまち柴田」をキャッチフレーズに進めてきた観光まちづくりや、町民の皆様との協働によるまちづくりが功を奏してきた結果の賜物と考えております。誠にありがとうございました。

さて、町制施行六〇周年を迎えて掲げたテーマが「道」です。柴田町が誕生した昭和三十一年当時、町は農業や畜産が主産業でありました。昭和四十年代からは高度経済成長と相まって、企業誘致や生活基盤の整備が進み、街並みは大きく変貌しました。特に「道の整備は柴田町の街並みに大きな変化をもたらしました。」

国道四号柴田バイパスの完成、皆様の生活に欠かせない町道、船岡駅前通り、槻木駅前通り、農免農道などの整備そのものが町の変貌の歴史を物語っているといえます。今回の記念誌では「道」にスポットを当て、「皆様の暮らし」や「地域の生活」、「人や物の流れ」、「にぎわいや交流人口」などがこの六十年間にどのように変化していったのかを紹介しながら、地域がこれまで育んできた歴史や文化、自然を「道の道」でつなぎ、柴田町の変遷の姿や未来における「道の役割をお伝えしたいと考えております。」

改めて、六〇周年という記念すべき日を迎えることができましたことを心より感謝申し上げますとともに、町民の皆様には、次なる成長発展のステージに向けて、さらなるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年四月



柴田町長 滝口 茂

花のまち 柴田

花のまち柴田
イメージキャラクター
「はなみちゃん」



梅



クリスマスローズ



桜



チューリップ



スイセン



カーネーション



紫陽花



曼珠沙華



コスモス



シクラメン



菊